

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400058		
法人名	社会福祉法人安代会し		
事業所名	グループホーム やがみ		
所在地	〒028-7604 岩手県八幡平市丑山口28-1		
自己評価作成日	令和6年10月4日	評価結果市町村受理日	令和6年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日々の天候の移り変わりを、食堂から見えるやがみ山を眺めながら、目や耳で感じ取り午前中のコーヒータ임을『茶話会』と称し、ご利用者様と語り合う時間を設けています。
・家に帰りたい 家が気になるとつぶやきがあれば、時間をみつけドライブしながら、職員との時間も大切にしています。今年度は『一人一人の出来ることをみつける』と目標をきかけ、職員と一緒に掃除 洗濯 茶碗洗い 裁縫 ご飯の盛り付け等率先して取り組んでいただいています。
・昨年度同様コロナ感染対策上対面的ふれあいができる活動が制限されていますので、職員各々の技術・経験を発揮していただき、ご利用者様に楽しい時間を過ごして頂いております。面会制限も継続していますので、積極的に電話でのご家族様との時間を設けたり、短い時間でのご家族様との貴重な時間も楽しいひと時に過ごせるように心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田山スキー場に近く、法人母体の特別養護老人ホームや他の福祉施設、国保診療所に隣接し、自然環境豊かな場所にある。利用者の生活状況を多くの写真で家族に報告している「やがみ活動日記」が好評で、家族の信頼も厚い。利用者にも聴き取りによるアンケート調査を実施し、行きたいところや食べたいものなどを把握し、実現に繋げている。集合形式で行われている運営推進会議は、近隣の方を会長として、写真による業務報告やヒヤリハット報告など丁寧な説明があり、活発な意見が出される有意義な会議として機能しており、職員にも会議の状況が情報共有されている。地域消防協力隊の「むつみ会」や押し花を届けてくれるボランティア、近隣の小学校との交流なども行われており、地域と繋がりがながら利用者楽しく、安心して生活できる環境が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

「評価機関・特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安代会の理念は、ご利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、心の通うケアを提供することです。具体的には、「一生も、一瞬も」という言葉に象徴されるように、ご利用者の人生の一瞬一瞬に寄り添い、その人らしい生活を支えることを目指しています。月に1度の『やがみ会議』等で協議、情報共有し実践につなげている。	事業所の理念として、法人としての理念「一生も。一瞬も。」を掲げ、利用者の一瞬一瞬に寄り添い、一生を支えていくことを目指している。具体的な取り組みとして年度ごとに達成目標を設定し、さらに、職員一人一人が個人の目標を設定して、理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長期的なコロナ禍もあり感染対策上施設内外においても地域の方々と交流する機会が減少しているが、訪問理美容、園庭草取りや軽トラ市に参加できている。地域交流スペース開放・貸出しも検討したが高齢者施設の為感染対策上難しい。今年度は地域の文化祭で展示された地域の方の押し花や写真等をお借りし、ホール展示させていただいている。	コロナ禍が続き様々な制限はあるが、感染症拡大防止に注意を払いながら、地域のお祭りである「先祓い」や軽トラ市、小学校の運動会を見学している。小学校とは運動会の見学をきっかけに1年生から3年生まで12名が来訪して、芋植えが行われている。また、ボランティアによる「押し花」の飾り付け、野菜の差し入れなどもあり、地域との繋がりが続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政、在宅支援センター主催の『認知症カフェ』への会場提供等、情報共有や情報の発信に継続して取り組んでいる。中学生の職場体験として短時間だがご利用者と関わりを持つことができた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容を詳細に報告し、意見を伺い透明性のある運営推進委員会を目指している。職員へは書面で内容、結果を共有しサービス向上に活かしている。活動内容は写真で様子が伝わるよう工夫している。運営推進委員会内容は、会議開催前、開催後、二度GHやがみ職員に回覧し意見を早急に反映させている。	昨年度から集合形式で開催している。地域の方を会長として、事業所の活動内容の写真を添付するなどして詳細に報告し意見をいただいている。委員には利用者や家族も含まれているが、新たに警察関係者の方も加わっている。外出支援の要望があり、ドライブの機会を増やすなどの対応を行っている。会議の内容は職員にも回覧し、情報共有に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として包括支援センターとの協働等で助言をいただき、日々の業務や行事に反映させるように心がけている。専門の部署にはその都度相談でき協力を頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センターも出席し、様々な情報提供や助言をいただいている。また、生活保護を受給している利用者が1名おり、市のケースワーカーとのやり取りもある。成年後見人の選定などの課題もあり、連携しながら様々な協議を行なっている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束廃止検討委員会が法人全体で身体拘束しないケアに係わる取り組みを行っており、3か月で委員会を開催。管理者も構成員として参加している。物的拘束以外にも精神的拘束等にも配慮し職員間で情報共有を行い、身体拘束のない環境を目指している。	法人として指針があり、委員会には管理者が出席し、3か月ごとに開催されている。動画を視聴する形式で研修会も年2回行なっている。スピーチロックにならないよう注意を払っており、気になったことは、朝夕の申し送り時や職員会議などで話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護に関しては「虐待防止検討委員会」を中心として法人全体で取り組んでおり、情報共有している。ご利用者の様子を繰り返し観察したり、言葉がけを変えて返答を確認したりなど、職員、ご利用者同士の信頼関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上の内容ではあるが、言いやすい環境づくりに取り組み、情報提供・共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設紹介の資料にホームページ等を活用し分りやすく説明し対応。合わせて契約書に関しても確認、傾聴しながら説明。GH独自のパンフレット活用し、経済的な情報等を含め不安・理解・透明性を念頭に取り組んでいる。改正時はその都度、文面と口頭で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者においては奇数月のアンケートで意見を傾聴し職員会議で対策を検討、実施。ご家族においては運営推進会議への参加や面会時、個別の「活動日記」を活用し意見や要望を確認している。玄関には意見箱を設置している。短期目標更新時(概ね6か月)担当者会議を開催し出席できなかったご家族には写真付きのお便りで現状をお伝えしている。	利用者には隔月でテーマを決めて聴き取りによるアンケート調査を行い、運営推進会議で報告するとともに、希望することの実現に努め好評を得ている。家族には、写真を多く掲載した個別の「活動日記」を送付して意見を求めている。電話での様々な連絡の際にもご意見を伺うことがあるが、感謝の言葉をいただくことがほとんどで、管理者は些細なことでも希望があれば伝えて欲しいと思っている。	利用者の声の把握は密に行われているが、家族の意見・要望等は極めて少ない状況にある。定期的に家族へ郵送する活動日記や利用料金請求の際に、書面でアンケート等を行い、家族の意見、要望を把握することについて検討されることを期待します。

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・各種委員会活動、事業所の毎月の職員会議、日々の業務申し送り、人事考課の際には意見交換等その機会を多く持っており、職員全員が関わる体制づくりを行っている。やがみ会議は運営会議後に日程を組むようにし法人全体の情報を共有している。	職員からは、日々の申し送りや職員会議の際に、利用者の席の配置、テレビの向き、玄関のベルや箸の色などについて、様々な意見や提案があり、その都度話し合っ利用者の快適な生活の向上に努めている。また、年2回個人面談があり、資格の取得、家庭事情など個人的な相談ができるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課実施要綱等の取り組みあり、事業所管理者が面接し、さらに幹部との面接がある。加えて法人の衛生委員会や各事業所において職場環境や勤務状況等が協議され、運営に反映されている。衛生委員会からの情報を休憩室に掲示し活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画や要綱があり研修体系や、資格取得支援制度の自主研修経費の助成制度、職専免等の優遇措置がある。新人職員へはチューター制度があり、今年度はGHより1名介護福祉士実務者研修を受講している。希望を確認し外部研修にも派遣している。内部研修は各委員会が中心となり定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の研修会や県、地域ブロック研修会の参加がコロナ禍で研修形態に変化あり、動画研修によりネットワークを通じ今後も質向上につながる研修も計画している。外部評価をワムネットで厚生労働省の介護サービス情報公表システムで確認する手段をやがみ会議で実践した。今後は同業者との交流に取り組んでいきたい。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学やご利用者の面会を希望させていただき、面談時に困っていることなどを十分に確認し支援につなげるようにしている。特にご本人の思いや、入居までどのように過ごしてこられたか聞き取り、入居後は少しでも生活に慣れさせていただき安心して生活できるように配慮している。		
----	--	--	--	--	--

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込みの際、ご家族の要望、困りごと、金銭面、医療面を確認し ご利用者にとどのような生活を送っていただきたいかもご家族からも伺っている。入居数日は出来るだけ電話でご様子をおつたえするようにしている。ご希望があれば、電話でお話をできる時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族双方のお話する時間を設け関係機関からの情報も収集しできるだけ要望に応えられる様に努めている。状況により他のサービスを検討するなどの助言も行っている。ご利用者、ご家族の状況に合わせたサービス利用ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開設時より取り組んでいる毎日の新聞読み聞かせやご利用者アンケートで、ご利用者からの申し出や要望等を受け止めている。「その人らしさ」や「その時」を大切にに取り組んでいる。生活の中で「できること」や「やりたいこと」「集団の中の存在・協働」を継続して、日常生活の中で役割感を持って暮らしていただけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にできるよう、遠方在住ご家族への配慮を含め「活動日記」で暮らしの情報提供を行う。ご利用者の様子を電話や写真等を活用し状態報告する事で ご家族側の協力により新たな発見や昔の習慣、懐かしい思い出が見つかる事がある。ご家族からサポートしていただきながら、ご利用者を支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者アンケートや毎日の読み聞かせでは行事や趣味活動の意見、要望等を確認しており、外出行事等の参考にしている。地域の祭りや地域の行事等では家族・親戚・知人・友人との再会があり、馴染みの関係を意識した行事に継続して取り組んでいる。	毎日、新聞やチラシ、広報紙などの読み聞かせを行い、地域のことなどをお知らせしている。コロナ禍以前は知人や近所の方が面会に訪れることもあったが、現在は制限があるため、お祭りや軽トラ市などの外出時に再会すること多い。2か月に1回の散髪、野菜やリンドウの差し入れなども馴染みの関係の継続に繋がっている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の読み聞かせ時間には皆様が顔を合わせ、思い出話や体験・経験談を笑いを含めて談話されている。ご利用者自ら洗濯たみを声掛け合い進めて下さったり、食前の手指消毒を声掛けて下さったり、職員もご利用者の輪に入り一人も孤立することなくご利用者がここでは家族と思えるような関係づくりに力をいれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からご連絡いただいた際は継続的な関わりを大切にしている。退所後や入院中は、関係者やご家族に状況の確認等を密にとらせていただいています。特別養護老人ホームへの移動となった際はご家族からの承諾をとり情報提供を共有し、ご家族へのフォローも確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者アンケートでの個別聞き取りでご利用者一人ひとりの希望、要望、意向等確認している。時には「不快だったことや職員への嫌なこと」なども確認し、個々を尊重しご利用者を中心に、職員からの一方的なものとならない寄り添う支援に取り組んでいる。	入居時の調査は主にケアマネが担当し、必ず本人と面会して行なっている。病院からの入居については、家族からの希望もあつて慎重な対応を心掛けている。利用者のほぼ全員が言葉で思いを伝えることができるが、希望することがを叶うように努め、嫌なこと、思いに沿わないことは、利用者の表情等を注意深く観察しながら、避けるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上に加え、ご利用者の個々の暮らし方は毎日の読み聞かせの時間がその取り組みの1つであり、ご利用者からの発言(思い出の引き出し・その時)を大切に、その人らしさに寄り添う介護を目指している。会話の中で思い入れのある場面や品物がある時はご家族に持参して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し生活援助計画実施状況の把握に努めている。また、申し送り時間や職員会議等で「できること、できないこと、支援して欲しいこと、危険なこと」等を確認、他バイタルチェックを行い食事摂取、排泄状況等も日々観察、記録して申し送りも行っている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援専門員を中心にカンファレンスを行い、日々の支援や介護計画等取り組み、情報を共有し信頼関係を深め、ご利用者・ご家族の要望、変化を取り入れ対応している。短期目標更新(概ね6ヶ月毎)に計画見直しご家族の意向(電話・面会時確認)、受診時の助言等も計画に取り入れている。	計画作成担当者がPDCAサイクルに沿って、モニタリングから原案作成を行い、職員からの意見も聞き、家族への説明、了解を得てプランを実施している。最初の入居1週間でプランを作成し、6か月ごとにプランを見直している。医師や歯科医師からの助言等も盛り込んでいる。家族には電話で説明するが、夜間にならないように心掛けている。プラン確認のサインを利用者本人に手書きで行うように努めており、手書きであることに家族からは好評である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、ありのままの言動や行動を記録しその背景に何があるのか職員で共有できる内容にし、ケース記載している。ご家族への報告の際も、確認資料としている。早急に解決したいケア内容の際は、朝・夕どちらかの申し送りでケース記録を印字し職員間で共有する対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議や利用者懇談会、日常のご利用者の意見やご家族の要望等にも柔軟に対応できるよう、その人らしさやその背景を見つめることのできるよう支援している。屋内外行事やに小さな畑作り、手作りおやつ献立の希望等はその時々ニーズに対応しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人のノウハウや豊富な情報に加え、運営推進会議構成員には地域包括支援センター職員や市老人クラブ会長、地区ボランティア代表等の地域資源に精通した方々も含まれており、地域に根差した法人・施設としてその取り組みを実践している。地域発行のチラシ、市広報も取り寄せ情報共有している。事業所側の駐在所警官にも推進会議に春から参加していただいている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前に主治医確認しご家族のご協力が得られ る際は遠方(盛岡友愛病院片道高速利用で1時 間30分)の受診通院も可能としている。希望がな い、又は主の医療機関を持たなかった方は協力 病院田山診療所)とさせていただき、全て職員が 付き添い、主治医と面談。その後ご家族と連絡を 取り、健康維持に努めている。そのほかの他科 受診希望はその都度対応している。(耳鼻科・眼 科・歯科)ご家族同行受診を推奨しているがご家 族が遠方の為、受診後報告となっている。	利用者のうち5名は協力病院がかかりつけ医と なっており、他の4名は入居前からのかかりつけ 医を受診し、そのうち2名は家族による通院支援 が行われているが、2名は遠方であっても職員が 通院支援に当たっている。医療機関とは受診予 約やバイタルデータの提供などにより、適切な医 療連携が確保されている。	協力病院以外の遠方の受診につい て、家族も一定の負担が必要であるこ とを説明し、職員の負担の軽減に繋 がることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	職員の付き添い、同行受診において必要時は法 人看護職より指導・指示いただいている。代理受 診も含め、継続して適切な医療が受けれるよう協 力病院、かかりつけ病院とは連携し、観察・報 告・相談等情報共有しながら取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	隣接の診療所と市内外病院共に毎月利用者定 期受診している。入院等受入れ可能な市立病院 は母体施設の協力医療機関であり、法人の産業 医、事業所の協力医療機関であり、常にその関 係作りが行われている。医療相談室とも連携をと り情報共有させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期に対して地域的に医 療体制が整っていない現実をご家族にお伝え し、ご家族の意向は入居時、介護保険更新時に 再確認させていただいている。重度化しても医療 的ケアを受けておらず経口からの摂取が可能で あれば、その先をご家族と考えながら隣接する 特養等のお話もさせていただく。職員は看取りと いう場面に遭遇する可能性も含め、研修は継続 している。	看取りは、体制整備に課題が多く残っており、入 居時に家族にできないことを説明して了解を得て いる。重度化した場合には、法人母体の特別養 護老人ホームを含む他の施設に移ること又は入 院することについて話し合っている。ターミナルケ アの研修を動画の視聴を通じて行ったり、特養勤 務の経験を持つ職員も配属され、出来る限りの 介護を行う態勢が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の事故発生防止対応指針がある。事業所 においても利用者それぞれにおいて、その急変時 の対応を想定した緊急持ち出し用関係綴が準備 されている。法人としての応急処置や緊急時対 応マニュアル等もあり、必要において職員会議や 日常業務で確認し合い取り組んでいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やがみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人に防災対策委員会が設置され、地域消防協力隊(むつみ会)を組織し、災害時の訓練が行われている。事業所においても年2回訓練を実施し、運営推進会議でも報告している。	年2回、8月と3月に火災想定避難訓練を実施している。ハザードマップ上、特に心配なところは無いが、災害の状況に応じて避難場所を近くの特養かコミュニティセンターのどちらかを選択することとしている。なお、法人として地域消防協力隊「むつみ会」を組織し、万が一の場合の協力体制ができています。食料の備蓄は3日分、発電機も備え、近くに居住する職員は3分ほどで駆けつけることが可能となっている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議や日々の申し送り時に気になる事はその都度支援方法を確認している。また、ご利用者アンケートで職員の言葉使いや施設の日課・行事の良いところだけではなく不快なところやプライバシー配慮への確認を行なっている。	利用者の汚れ物などには、さり気なく処理するよう心掛け、視力の弱い利用者には手に触れての支援を行うなど、一人一人に配慮した対応を心掛けている。「やがみ活動日記」に利用者を掲載することについては、入居時に家族等にも確認して全員が了解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者アンケートをきっかけにご利用者全員の意見を抽出するなどの取り組みを行い、信頼関係作りに努めている。加えて日常会話の中からご本人の希望に添った「物・時間・場所」を引き出せる会話に努め、その思いを自己決定で表現できる支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その日その時思い出」を大切に支援できるように毎日の新聞読み聞かせでコミュニケーションの時間を利用し、思い出を振り返ったりやってみたい事、嫌なこと好きな事等の精神・健康状態など、その時の行動を見つめ見守り、日々の暮らしを大事に取り組んでいる。個別な対応が統一出来る様に24Hシートを活用している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の衣類交換や通院、外出の際は衣類、身だしなみはご本人へ確認し準備している。要望があった時はご家族へ衣類入れ替えを行っていただき、おしゃれへの関心、興味等継続できるよう配慮し、外出時や季節行事の際はご本人の希望に沿った化粧や衣装の取り組み(希望確認)を行っている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は三食、給食委託業者からの調理配膳でおこなっている。法人で食事サービス委員会を組織している。昼食の献立はご利用者の要望に配慮されている。やがみでのおやつ時間は手作り料理等を取り入れ、楽しみの一つとしてご利用者と一緒に作る工夫をしている。今年度は小さな畑での収穫を一緒にすることで 食事時に彩を添える事を行った。食事を楽しむ支援につなげている。	法人として3年前から給食委託業者提供のものを盛り付けて提供している。旬のもの、食べたいものなどの献立の希望は、食事サービス委員会で話し合っている。誕生日には利用者の希望を聞き、ケーキなどを出している。おやつは自分たちで作ることになっており、きりたんぽやラーメン、手打ちそばなど多彩で、今年はトマトが豊作であったことからシロップ漬けを作り好評だった。盛り付けや片付けなども一緒にいき、食事を楽しむことができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	R5.5～科学的情報システム(LIFE)開始、量や栄養バランス等の助言を管理栄養士にいただいている。毎月の体重の増減管理、食事形態も相談し、ご利用者の生活習慣、要望、しぐさを見守り支援している。 1日の水分は個別に飲料量をシステム管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケア見守り支援している。口腔衛生管理加算に係わるサービス提供を行い、毎月歯科医師・衛生士の回診指導を受け、必要な治療は協力歯科医のアオキ歯科にて訪問歯科等受けている。食事前の口腔体操も兼ね歌を歌うなどで口腔ケアに配慮して取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣、排便前のしぐさを聞き取り個々の排泄状態に合わせた排泄用具提供(夜間ポータブルは3名)。布パンツご利用者には 布製の安心パンツがあることをご家族にも情報周知していただく支援をしている。	現在、布パンツ6名、リハビリパンツ使用が3名となっている。万が一に備えて、夜間に4名がポータブルトイレを準備している。パッドをちぎってトイレに流そうとする利用者があり、注意している。入居当初のリハビリパンツ使用から3、4名の利用者が布パンツ使用に改善が見られるなど、排泄の自立支援が順調に進められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は主治医より指示を受け下剤の調整や記録を確認し取り組んでいる。食事・水分等協議し、日々の活動やテレビ体操等取り入れトイレでの自立排泄支援に取り組み、自然な形で排便ができるよう個別に支援している(職員見守り陰部洗浄も兼ねシャワートイレの利用支援)それでも排便が無い時は酸化マグネシウム錠を頓服処方希望を主治医に相談している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回(月・木)(火・金)の入浴を設定しており、一人一介助でゆっくり入浴できるよう、浴槽の温度、入浴時間を個々に合わせている。シャワー浴や清拭を必要に応じ対応し支援している。また外出や個々の要望に応える形で翌日振り替えも実施している。足浴の要望等に対応し、支援している。夏場は希望者に清拭実施。	利用者を2つのグループに分け、週2回の入浴を確保している。夏の暑い時期や希望によりシャワー浴や足湯、清拭などの介護支援を行っている。入浴を嫌がる利用者や異性介助の問題もなく、入浴は、職員との会話を楽しんだり、歌を唄う楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活リズムや生活習慣を大切に支援している。現在眠剤利用者なし。就寝を強制せずテレビを見たい場合や夜間の一人歩き等個々の行動を尊重し、昼夜逆転しないよう納得出来るよう支援している。レム睡眠行動障害等含めご利用者それぞれ、その背景を配慮しながら安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の服薬処方箋(紙面)は職員全員で回覧し、処方内容を確認している。変化があった際もその副作用等確認し申し送り等で繰り返し情報共有を図る。見守りや介助の必要な方、服薬スタイルに対応しながら支援している。薬管理職員も配置し残薬等の確認もできている。残薬を紙面化し職員誰もが確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者アンケートの要望等で、個々の役割りや楽しみを確認し、職員で情報共有して支援している。毎日の食事準備で盛り付け、食後の茶碗拭き。洗濯たたみ、床のモップ掛け、小さい畑での野菜収穫やカーテン閉め、手すり掃除等で日常の張り合いや役割感を感じとっていただいている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人:希望時は天気と職員配置を確認し希望先に出掛け近隣の商店でお買い物の支援を行っている。 個人:病院受診後時間を作り行きたかったコンビニに立ち寄りお買い物の支援を行っている。 ご利用者アンケートでの聞き取りで個々の外出支援等に傾聴し、行事に取り組んでいる。日々の要望や咄嗟なことでも応えることのできるよう配慮している。また、敷地内の小さな畑や花壇への散策等の場合も付き添いまたは、見守りを行いご利用者の要望に応えられるよう支援している。	天気の良い日は周辺の散歩、花壇や畑への散策に出かけることが多いが、最近は熊の出没があり気を付けている。アンケートによる利用者からの希望もあり、ドライブは積極的に行っており、法人からハイエースを借用した花見や紅葉狩り、スーパーへの買い物にも出かけている。コロナ禍もあり感染症の拡大防止に留意しながら、出来るだけ日常的な外出を途切れさせないように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半のご利用者自身がお金を持ちたがらない。中には銀行の窓口の利用やキャッシング程度を自己管理する方もいる。今後も買い物や外出支援、可能なご利用者の支援をご家族と連絡をとりながら、希望に合わせた取り組みを行っていきたい。事業所としてはお金を管理することはない。その点は入居時にお話させていただき、紛失等のトラブルがないように気にかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しているご利用者が1名。その他の方はご家族と話したい意向があれば、子機電話を使用しご家族・ご友人との会話が出来る時間を設けている。お手紙に代わる「やがみ活動日記」でご利用者自身のコメントやメッセージを聞き取り写真を添えて支援に繋げている。短期目標更新時には写真付きの最近のご様子を加えたお手紙を添え、ご家族の署名、捺印をいただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造施設で県産材を使用し、施設特有の施設臭、閉塞感がない。トイレも動線の4ヶ所にあり、各居室より使いやすい位置にある。談話室には6畳間がある空間となっている。全居室にエアコン完備し年間を通し温度管理ができる。浴室・脱衣場にもエアコン設置、温度管理を行い快適利用できるように取り組んでる。食事席においても個々の身体に合った椅子・テーブルを準備し季節に合った装飾を工夫している。職員も朝晩水拭き等で掃除し居心地よく過ごせる工夫をしている。	ロビーにはエアコン、床暖房、パネルヒーターと空気清浄機が備えられ、快適な温度と明るい環境が整えられている。利用者の席は職員の工夫で指定席になっており、テレビやソファもあって、それぞれが好きなように過ごしている。壁面には春夏秋冬や年中行事に合わせた作品が飾られ、季節感のある清潔で居心地の良い場所が確保されている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話、交流等自宅の居間をイメージする食堂ホールの他に地域交流スペースがある。このスペースは地域住民へ貸出しできる空間であり、ご利用者個々が屋外を眺め、一人静かに想いに更ける空間として利用されており、各々の居場所的空間となっている。テレビ前のソファ一席や玄関前の長椅子等は、気のあう同士が腰掛ける場面も多く見られ、居場所づくりの場と捉えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては壁掛けのコルクボードにはその人なりの居心地良さを演出出来るよう個人の写真や装飾品、利用者便り等の掲示板として使用できるよう工夫がなされ、個性的な居室作りに取り組んでいる居室においての所持品も人形や書庫やDVDオーディオ、テレビ、それぞれであり、個性的な居室作りに取り組んでいる。寝具交換時や家具移動時はベッド位置の確認もその都度している。	部屋の窓がペアガラス、内側が障子戸になっており、手すりの付いたベッドとマットレス、洗面台や押し入れとエアコンが備え付けられている。また、テレビやラジオ、衣装ケース、家族の写真やぬいぐるみなど馴染みのものがそれぞれ持ち込まれている。現在、感染症の拡大防止のため、家族が部屋に入ることができないが、職員による毎日の清掃と毎週のリネン交換があり、快適に過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者に合ったトイレの動線(4ヶ所のトイレ)、性別区分した居住ブロック、入浴の安全の為浴槽手すり設置 滑り止め洗身場所、往来自由な広めの廊下、自動ドアの有感センサー等があり、安全で安心できる施設を作りを目指している。敷地内の小さな畑では初心者野菜作りに取り組んでおり、一人ひとりのできること、在宅生活の延長が楽しめることへの支援に取り組んでいる。絵本等を手軽に手に取れる本棚を設置。自ら手に取り自立した生活が送れる工夫をしている。		